

続「おもてなしの花づくり」を考える

林 角 郎

1. まちなかでのガーデニングの普及について

筆者は一昨年の花葉33号に同名の表題記事で特に公共的花壇の栽培に関し、千葉県安房地域での例をあげて述べましたが、それに続いて今回は普通の町中で見られる住民の方々による花の装飾やそのための花づくりについて例をあげて述べたいと思います。

ここでまず前稿から続く本稿の趣旨について述べますと、大きな見だしである「おもてなしの花づくり」は当面の目標であるオリンピック関連のための歓迎行動を意識するものではありませんが、そのねらいはあくまでも多くの人々の暮らす生活周辺の各場所で継続的に花を栽培し、常時花に囲まれた環境を作ることにあります。そのためには前回にも述べたような沿道や町中の広場、ターミナル、公共機関の構内等の公共的施設に加えて、道を通りながら自然と目にふれる個々の商店や事務所等の前や、個人住宅の門の前、さらに門から家の入口までのアプローチ部分等、個々で管理するような箇所についても、すべて花や緑の栽培による美化をはかることを意味しています。これらの場所は本来プライベートな場所として、それぞれの家や企業

体などで管理する領域ですが、車利用でも、歩きの場合でも公道を通行する人々が自然と目にする箇所でもあります。したがってこれらの場所の装飾は、その地域の人々のほかに、国外も含めた外来の人々に対してその地域の雰囲気を示し、ひいては心をなごませるための重要な要素になるものと考えられます。ただ、わが国の住宅は塀や生垣で囲まれているため、これまでは中の様子が外部から全く見られない状態でした。しかし最近の傾向として門はあっても扉のない場合や、周囲を丈の低いフェンスで囲う程度の開放的な住宅が多く見られるようになっており、個々の家の中で作られる花も外部からかなり見やすくなっているように思われます。

ただこれらの場所はすべて個人や個々の企業の管理分野ですから統一だった行動は困難で、あくまでそれぞれの考えによるものです。このため地域内で多くの人々が意識して、道から見える場所の花づくりの必要性をPRするよう努める必要があります、それが「おもてなし」の精神につながるものと思います。

2. 館山市におけるまち中の花づくりの例

このような事例は数多く存在すると思われませんが、主旨内容を示すために筆者の住む館山市内での事例についていくつか写真も入れて示すこととします。

(1) 一定規模の展示的栽培の例

第1図は館山市内の入湯施設である里見の湯の中に存在する商店街「里見横町」の前庭に作られたバラ花壇です。このバラの植栽は、この商店街の中の喫茶店が企画して花壇造成と植栽を行ない、企画と苗木の選定、植付けは県内袖ヶ浦市にあるバラ専門施設の技術者の指導により行ない、その後の管



第1図 見事に咲くバラの間に座り、屋外ライブを楽しむ人々

理作業は南房総市丸山地区の1人の女性愛好者がボランティアで行なっています。このような専門的な人々による企画、植栽と日常の管理により筆者の見る所ではバラは非常に順調に発育しており、品種として四季咲性のフロリバンダや大輪種が主体のため初夏から秋まで常にバラの花で埋まる状態となっています。また、店の方では企画した技術者に依頼して2ヶ月に1回の講習会を継続して行ない、2016年5月には小音楽会を開催するなどして多くの人を集め、その他普段の日でも開

花の期間すべてを通し、来訪者の目を楽しませています。

このような、一定規模の花栽培について、安房地域内では農業者個人で牡丹や花菖蒲の多くの品種を栽培し、開花時期に栽培地を開放して一般の人達に自由に観賞させる例も存在します。また、この地域では一般の方々によるハナナやヒマワリの大規模な植栽例もあり、開花時期には地元の人々の他、外来の人々も多く観賞しています。

(2) 病院の前、構内等の花壇装飾

安房地域内では各種病院等医療施設における花壇栽培の例がかなり見られます。これは花の栽培による直接的な医療効果も期待されますが、これまで2～3の病院に伺ったところでは、いずれも医療効果は期待せず患者さんや病院の前を通る人々の心をなごませる目的などの考えが強いようです。

第2図に示す沿道の花壇は、館山市内の総合病院・北条病院にある道路沿いの石組み塀の上の細長い植込みでの栽培ですが、ここでは周年にわたりほぼ常時花が咲くよう年2回か3回の植栽を行なっています。特に春には写真のようなチューリップの花を毎年咲かせ、道をはさむ反対側の病棟周辺の植栽と共に道行く人の目を楽しませています。この植栽は同病院の院長の奥様を中心となり職員が管理しているそうです。

その他の例として写真は省略しますが、南房総市三芳地区の三芳病院では病院内と附属する老人養護施設のかなり広い規模で花が栽培され、その管理は職員と入所者の手でなされています。また、同市千倉地区の野村医院では入口の道路わきと構内待合室の外の花壇に、造園業者に委託して常時花が咲く状態で栽培されています。院長先生のお話では、この花壇植栽は来られた患者のためにテレビを置かわりとして行なっているとのことですが、道路沿いにも花壇があり同様に管理されています。このほか館山市内では、いくつかの医院でそれぞれ小規模な花の栽培を行なっています。このように病院の施設では患者さんのために花壇栽培



第2図 病院の前の通りに面した石塀の上に咲くチューリップとパンジー

を行うと同時に道を通る多くの人々の目を楽しませる効果も十分期待できます。

(3) 館山市内で道を通りながら見受けられる例

第3図は館山市内館山地区の花屋さんの入口の植栽状況です。駐車場の端を仕切り、道路からお店に至る10m以上の間に小道をはさんでバラやハイビスカス、ヒペリカム、ニンジンボク等多くの宿根草や花木を植え、常時花が見られるよう栽培しています。この店ではご主人が造園業を営み、奥さんは生花販売のほか花壇栽培の指導や支援を行なっており、切花の材料から挿木で増やすなどして栽培しているとのこと。この花の見事さに道を通る人々もしばしば店への小道に入り、咲く花を見ているそうです。



第3図 年間絶やさず何かの花が咲く花屋さんの店先



第4図 お店の建物に附設した小花壇と容器による栽培

3. 落合哲平さんの花いっぱい活動

ここで本会の会員でもあります落合哲平さんの花いっぱい活動についてご紹介いたします。落合さんは千葉県営の植物園であった南房パラダイスに長年勤務され、退職後自ら花苗の育成販売を行っていますが、同時に花壇苗利用のPRのため安房地域内各所の病院、公共施設等、現在10ヶ所にご自身の育成苗を提供し、展示を兼ねて地域の花いっぱい活動に協力しています。

その一例として、館山市中央公民館では玄関わきの一角に栽培容器を数個置いて季節の折々に適宜花壇苗を植え、施肥、灌水等の管理もご自身で行なっています。

この例は第5図に示すとおりです。なお、この公民館ではすでに本誌に述べておりますように、筆者も花壇を栽培するボランティアグループの指導をしていますが、この花壇に試作として栽培する新しい品種の苗

第4図は前例に近い地区のやはり道路に面した店の建物に附随して作られた小花壇に折々の花や、時には野菜も作っています。この小花壇のみではなく向って左側には花を植えた鉢なども配し、いつでも店の前が花いっぱいの状況となっています。

館山市内ではこのように店の前に花を植えた容器や鉢を置く例も多く、また一般の個人宅でもその例が見られます。しかしいずれもスポット的存在で、まだ花の町として目立つほどではありませんが、その努力は続けられており、事実上その数も増加する傾向にあります。

をこれまでも数多く提供していただいております。



第5図 館山市中央公民館玄関わきで落合さんが管理するベゴニア・ドラゴンウイング (手前のラッセリアは別グループが栽培)



第6図 交差点前の店に咲く落合さん作成の花の装飾



第7図 銀行の前に咲くペゴニア・ドラゴンウイング(落合さん提供)

この落合さんの育成苗の町中における利用例を第6図及び第7図に示しますが、この2例は館山市館山地区内の幹線道路の交差点周辺にあり、個々の例はささやかですが、これに刺激されて他の商店の店先にも花を植えたプランターが見られるようになり、全体として町の一角が花いっぱいの様子となっています。

4. 自然状態で生育開花する花の仲間

以上に述べた例は、いずれも通常のように手間や費用をかけて栽培している例ですが、安房地域では最初他から苗を入れて植えたものかもしれませんが、そのあと自然に増殖などして放任に近い状態で生育開花している例がいくつか見られます。種類としてはランタナが多く、プルンバゴ、ゼラニウム、ガザニアの白花種なども見られます。

これらは共通して一回苗を植えたのち、そのまま数年間据え置いてほとんど手間をかけず栽培しています。ほかに自然に種子がこぼれ、発芽後そのまま生長している例もあります。またガザニアはかつて千葉県が花

いっぱい運動のため、他の花苗と共にガザニアの花色混合苗を配ったことがあり、その中の白花種（一部黄花種）が丈夫なため残り、その後順次分譲されるなどして自然に広がったものではないかと考えられます。このような省力型の栽培は装飾の面ではやや見劣りする場合がありますが、その例が多くなり、特に地域的にまとまるようになれば、やはり注目される存在になりうるものと思われます。その例として第8図にランタナの例を示します。



第8図 駐車場わきに列植され毎年自然に咲くランタナ

5. 館山市における花いっぱい関連事業と市長さんのご意見

前回2014年の筆者記事中でも述べましたように館山市役所では以前から市内の花いっぱい活動に関心が強く、早くから花苗配布等の事業を行なっていますが、さらに都市計画課では平成25年（2013）から市内で花づくりをする人々に応募を求めてガーデニングコンテストを行っています。その内容は応募者が春から秋までの間に撮影した写真を季節別にA4の紙に貼り、説明を付けて応募することになっています。この作品は当初2年間は市役所に展示するのみでしたが、平成27年（2015）には審査して賞を決め、市内3箇所で展示し、今年（2016）はさらに内容を一般の庭と花壇の2部門に分けて審査し、賞を決めて前年同様市内で展示する予定となっています。

このほか市内の花壇栽培については駅前や沿道等に市自体が花壇を設け、それぞれを担当部署で管理し、植栽には市民もボランティアがかなり協力しており、小生もこれまで本誌で述べましたようにいろいろと協力してきております。

また館山市長の金丸謙一さんも筆者がこの記事のために直接お話を伺った所では、この安房地域がこれま

では3方向を海で囲まれて「陸の孤島」と言われていることに対して、周囲の海を砂漠に見たてて「海のオアシス」として花と緑の多いこの地をPRする必要がある、と強調しておられました。そして、交通も陸上交通とともに海からのアクセスを拡大して、広く観光の人々を誘い、それにより地域の振興をはかることを強調しておられました。このお考えは本稿で述べました市民の方々が行っているような多くの人々が沿道で見ることのできる花づくりの動きと完全に一致するものと思います。

6. おわりに

本稿で述べた道を歩きながら見る花づくり、ガーデニングは最近テレビ番組で多くなっている散歩やまち歩き番組を意識で見ますと、かなり各地で見られており、とくに東京都内ではわき道や裏通りなどで多く見られます。これは以前から田中宏さんが述べておられた路地裏園芸そのものを指しますが、筆者の場合その植栽内容として緑の多い材料よりはなやかに咲く花物を主体にすべきと考えます。そして、その植込みの存在は、個々はささやかなものであっても、いくつかつながりを持ってまとまっていれば目立つ存在になると思います。さらに、それに花横町とか花十字路というようなネーミングがなされれば、より効果的と思われる。そして、そのような「まちかど花づくり」が多くなれば、その所在を示すようなマップを作ることなども考えられます。

なお個人が所有し栽培する庭園や花壇を開放する例として以前からオープンガーデンがあり、これまでには長野県の小布施町が有名で、前述の館山市長さんもかなり関心を持っておられました。このオープンガーデンは個人の屋敷内に作られた庭園や花壇を一般の人々に公開するもので、今回述べたまちかどのガーデニングとは若干内容が違いますが、いずれも花と緑の快い雰囲気を多くの人々に与える点で共通しており、当事者のお考えで十分移行できるものと考えます。このような形で個人の趣味活動の一つと考えられる花づくりも地域の振興につながる社会活動へ発展して行く可能性も考えられます。